

令和5年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

弥富市地域公共交通活性化協議会 (弥富市)

平成21年7月10日設置

令和3年3月 弥富市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和3年度～令和7年度)

令和5年6月22日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

令和6年1月19日 令和5年度評価結果送付

1.【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

弥富市の概要

人口：43,724人 ※令和5年10月末時点

公共交通の現況：北部地域を近鉄名古屋線とJR関西本線、名鉄尾西線が通っており、市内には計4つの駅（近鉄弥富駅、JR弥富駅、佐古木駅、五ノ三駅）が立地している。また、三重交通の路線バスが2路線、市内全域を運行するコミュニティバス「きんちゃんバス」が3路線運行している。

計画策定の背景

まちづくりと連携した地域公共交通の確保・維持・改善に向けた事業を推進し、持続可能で利便性の高い地域公共交通網を展開するため

弥富市地域公共交通計画

○計画期間

令和3年度～令和7年度（5年間）

○基本理念

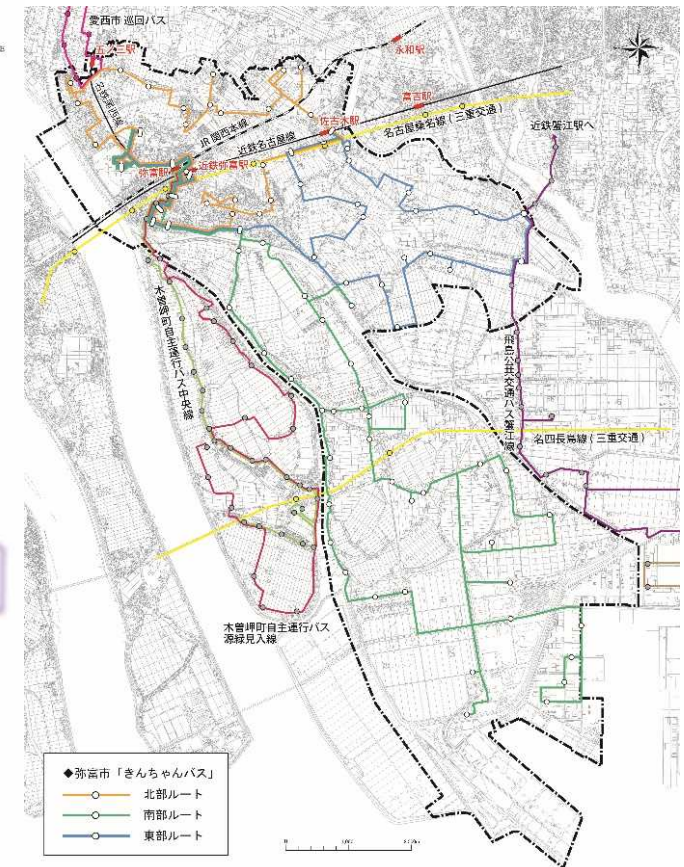
市民生活と地域を支える
持続可能な地域公共交通
の確保・維持

- ・基本方針1：地域特性や利用特性に応じた使いやすい地域公共交通網の形成
- ・基本方針2：継続的な利用促進策等の取組みの展開による地域公共交通の維持・活性化
- ・基本方針3：地域や行政、交通事業者等が協働・連携し、持続可能な地域公共交通を創り、支える環境の形成

地域公共交通の展開イメージ



現在の地域公共交通網



2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

主な取り組み内容

○第3期社会実験運行の実施（実施主体：協議会）

- ⇒令和5年6月2日～令和5年11月28日の間、デマンド運行導入に向けた実証実験となる第3期社会実験運行を実施（チョイソコやとみ）
- ⇒住民説明会を開催し、停留所の設置箇所の選定や実証実験の開催を周知
 - ・ 会員登録者数：553人
 - ・ 利用者数：607人

○福祉施策と連携した買い物支援サービスの展開（実施主体：市）

- ⇒弥富市ささえあいセンター利用会員を対象に、自宅と店舗との往復の移動と買い物をセットにして支援する「買い物支援サービス」を令和3年4月から本格運行開始し、令和5年度も継続して実施
 - ・ 利用会員数：17人
 - ・ 協力会員数：19人
 - ・ 運送回数：223回
- ※令和4年4月から令和5年3月までの実績



チョイソコやとみ

チョイソコやとみてなに??

ご自宅近くの停留所(住宅地停留所)から登録されているお店や病院(目的地停留所)などへ乗り合せて送迎する弥富市の社会実験事業です。事前の会員登録申込と、ご利用ごとに電話かインターネットでの乗車申し込みが必要です。

社会実験期間 (予定) 2023年6月2日(金)～ 2023年11月28日(火)	運行日 火曜・金曜 (予定) ※火・金が休祭日と 異なる場合は運行しません。	運行時間 9時～16時 ※運行開始前に到着いただきます
--	---	--

・ 停留所間を送迎！
※大森・栄南学区内の自宅近くに住居地停留所、登録されているお店や病院などの目的地停留所を指定します。
(大森・栄南学区以外に設置した目的地停留所の移動は不可)
※片道だけの利用もできます。ご乗車の時間帯によっては待ち時間があります。
※会員登録が必須です。会員登録の案内は、ご利用ごとに電話かインターネットでの乗車申し込みが可能です。

・ 運賃は**1乗車400円**です。
※会員登録料、支払い手数料などは別計です。

30分前まで乗車申し込みが可能です！
大森・栄南学区の皆さま、ぜひ使ってみてください!!

お問い合わせ先：
弥富市役所 市民協働課 ☎ 0567-65-1111 (代表)

○高校生を対象としたコミュニティバス運賃助成定期券交付事業（実施主体：市、交通事業者）

- ⇒令和5年3月末より、きんちゃんバスの利用促進と保護者の経済的負担軽減を図るため、市内在住の高校生に対し、運賃助成定期券を交付することできんちゃんバス運賃を助成
 - ・ 申請数：51件
 - ・ 利用者数：3,522人
- ※令和5年4月から令和5年11月末までの実績

○無料お試し乗車券による新規利用者の掘り起こし（実施主体：市、交通事業者）

- ⇒市内全世帯及び小学生に配布し、利用期間は親子での継続的な利用機会の創出のほか、新型コロナでの生活様式の変容も想定し、外出機会を創出できるように、夏休み期間を含む7月中旬から9月末までの約2か月間に設定（新規利用者108名）

きんちゃんバス

を使ってみよう!

●乗車料は無料です。●乗車料は無料です。●乗車料は無料です。

13歳未満 小学生以下 無料お試し乗車券 1枚 1人1枚 1枚 1枚	13歳以上 小学生以上 無料お試し乗車券 1枚 1人1枚 1枚 1枚	13歳以上 小学生以上 無料お試し乗車券 1枚 1人1枚 1枚 1枚
---	---	---

ご乗車の前に運賃券にお読みください

※その他主な取り組み

- ・ 75歳以上への無料パスカード配布
- ・ 65歳以上へのシルバーパスの販売
- ・ 福祉タクシー料金助成事業の実施

3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

基本理念・基本方針に対応した目標・指標を設定

基本理念	市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持		
基本方針	基本方針1:地域特性や利用特性に応じた使いやすい地域公共交通網の形成	基本方針2:継続的な利用促進策等の取組みの展開による地域公共交通の維持・活性化	基本方針3:地域や行政、交通事業者等が協働・連携し、持続可能な地域公共交通を創り、支える環境の形成
目標①	○	○	
目標②	○	○	
目標③	○	○	
目標④	○	○	
目標⑤			○

目標①：使いやすい地域公共交通網の形成による利用者数の維持・増加（未達成）

年度：4月-翌年3月	令和元年度 (基準年)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (実績値)	令和4年度 (実績値)	令和5年度 (予測値)	令和6年度	令和7年度	
全体	目標	-	8.5万人	8.8万人	9.1万人	9.4万人	9.7万人	10.0万人
	実績	8.3万人	6.2万人	6.6万人	7.9万人	8.2万人		
南部ルート	目標	-	3.5万人	3.5万人	3.5万人	3.5万人	3.5万人	3.5万人
	実績	3.6万人	2.9万人	3.0万人	3.6万人	4.5万人		
北部ルート	目標	-	3.5万人	3.7万人	3.9万人	4.1万人	4.3万人	4.5万人
	実績	3.3万人	2.4万人	2.3万人	2.6万人	2.7万人		
東部ルート	目標	-	1.5万人	1.6万人	1.7万人	1.8万人	1.9万人	2.0万人
	実績	1.4万人	0.9万人	0.8万人	0.9万人	1.0万人		

※令和5年度は10月までの実績に基づく傾向が年度末まで続いた場合の予測値

⇒全体の利用者数は前年度より多くなる予測だが、新型コロナによる生活様式の変容の影響で伸び悩み、新型コロナ前の水準まで回復していない
⇒ルート別では北部・東部ルートは新型コロナ前の水準まで回復していないが、通勤・通学利用の多い南部ルートは、新型コロナ前の水準を大きく上回り、計画の目標値に対しても大きく上回っている。

令和5年度の前年度比（増減率）

全体：8%増予想

◆南部：24%増予想
(通勤通学・買い物中心)

◆北部：7%増予想
(高齢者約8割で買い物中心)

◆東部：19%増予想
(高齢者約8割で温浴施設中心)

※ ()内は各ルートの利用特性

今後の方針①

- ・地域特性や地域による需要を踏まえた新たな社会実験運行などの実施による利便性の確保・向上
- ・市全体の具体的な公共交通網の再編案の検討
- ・継続的な利用促進活動の推進による外出機会の創出

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

目標②：利用促進策の展開等による新規利用者の獲得（達成）

	目標	無料お試し乗車券
新規利用者	毎年80人以上	108人

⇒昨年度と同程度の期間、無料お試し乗車券を実施
⇒令和4年度に比べ新型コロナによる行動制限が緩和された影響で外出機会が増えたことが新規利用者増加の理由として考えられる。

今後の方針②

- ・無料お試し乗車券の継続的な実施
- ・意見交換会や各種団体の会合、その他市民の方々が集まる場等における社会実験運行等の周知活動展開

目標③：利用者1人当たり運行経費の削減による持続性の確保（未達成）

目標④：収支率の改善による持続性の確保（未達成）

	目標（令和7年度）	令和元年度（基準年）	令和5年度（評価年）
利用者1人あたりの運行経費	1,000円/人以下	1,109円/人	1,309円/人
収支率	6.0%以上	5.3%	4.9%

⇒人件費の増加に伴う運行経費の増加と利用者の伸び悩みが大きく影響
※利用の7割を占める75歳以上の市民全員に無料パスカードを配布している
※運行経費は令和5年度の予算をもとにした、きんちゃんバスの運行経費と第3期社会実験運行に係る経費の合計
※利用者数は令和5年4月から令和5年10月までの実績に基づく傾向が年度末まで続いた場合の予測値と令和5年6月から令和5年11月の半年間実施した、第3期社会実験運行の利用者の合計
※収支率は令和4年度の実績

今後の方針③④

- ・現在の運行経費の維持を基本とした再編を検討

目標⑤：住民意見交換会の実施による地域公共交通を創り、支える環境の形成（達成）

	目標（令和7年度まで）	累計実績
意見交換会	2回以上	4回

⇒令和3年度・4年度に南部地域において、社会実験運行や再編検討に係る意見交換会開催

今後の方針⑤

- ・今後の公共交通網の再編に向け意見交換会を継続的に実施

4.【Act】計画目標の達成に向けた今後の取組方針の作成

- 課題
- 新型コロナの影響で生活様式が変容したことによる、バス利用者の伸び悩み（特に温泉施設利用が多い東部ルートと買い物利用が多い北部ルート）
 - 1人当たり運行経費や収支率の増大
- ⇒地域特性や地域による需要の違いを踏まえた対策を検討する必要がある
- ⇒利用の促進のほか、利便性を確保しつつ運行の効率化を検討する必要がある

対応方針1 地域特性や地域による需要の違いを踏まえた、市全体の公共交通網の再編に向けた、新たな社会実験の検討

- ◆ 利便性の確保と1人当たり運行経費や収支率の削減のため、第1期・2期・3期の社会実験運行の結果を踏まえた市全体の公共交通網の再編案を検討
- ◆ 住民意見交換会を適宜開催し、現行の弥富市地域公共交通計画の見直しと住民のニーズに合った公共交通網の再編を検討

対応方針2 継続的な利用促進活動の推進による外出機会の創出

- ◆ 無料お試し乗車券の継続的な実施による、外出機会の創出と公共交通の利用促進
- ◆ アンケート調査や広報、HP、意見交換会などの住民との接点を活用し、外出機会の創出につながる情報や公共交通の安全性の周知、きんちゃんバスや周辺自治体が運行するバスの情報、かしこいクルマの使い方の情報を提供

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	<p>期間限定の無料お試し乗車券を配布する事により、きんちゃんバスの利用促進を行ったことや、併せてアンケート調査を実施し、無料お試し乗車券の利用状況を確認している事を評価</p>	<p>・令和5年度も無料お試し乗車券の配布とアンケート調査を実施し、利用促進と利用実態の把握を継続</p>	<p>・外出機会の創出と公共交通の利用促進のため、無料お試し乗車券の継続的な実施</p>
	<p>第二期南部地域社会実験を行う事で、既存コミュニティバスの運行の補助を行い、その必要性の確認を行っている事を評価</p>	<p>・1期・2期の急行バス社会実験運行の結果を踏まえ、令和5年6月から令和5年11月の半年間でデマンド運行導入に向けた実証実験となる第3期社会実験運行を実施</p>	<p>・1期・2期の急行バス社会実験運行やデマンド運行導入に向けた実証実験である第3期社会実験運行の結果を踏まえ、住民説明会や協議会を通し具体的な再編案を検討</p>
	<p>これまでに行った無料お試し乗車券のアンケート結果に基づき、通常の運行の利用促進に繋げることを期待</p>	<p>・きんちゃんバスの利用促進と保護者の経済的負担軽減を図るため、令和5年3月末より高校生を対象としたコミュニティバス運賃助成定期券交付事業を開始</p>	<p>・高校生を対象としたコミュニティバス運賃助成定期券交付事業の継続と新たな利用促進策を検討</p>
	<p>第一期及び第二期の実証実験の結果に基づき、コミュニティバスに必要な路線や運行方法を検討し、既存の路線に対して必要な対応を行う事を期待</p>	<p>・1期・2期の急行バス社会実験運行の結果を踏まえ、第3期社会実験運行を実施し、南部地域の公共交通の再編案を検討</p>	<p>・第1期・2期・3期の社会実験運行の結果を踏まえた市全体の公共交通網の再編案を検討する。</p>

※前回：令和5年3月10日（結果通知）

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	新型コロナウイルスの影響下にあっても、日常生活に必要な移動手段を確保されるとともに、住民意見交換会等によるきめ細かにニーズを把握していることを評価	<ul style="list-style-type: none"> ・住民意見交換会やきんちゃんバス利用実績の分析等から住民のニーズを把握 ・住民のニーズに対応したダイヤの編成等を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民意見交換会やきんちゃんバス利用実績の分析等を引き続き実施し、きめ細やかにニーズを把握 ・新型コロナ対策も含めた継続的な利用促進活動の推進
	南部地域における社会実験運行について検証され、効果的かつ効率的な再編が検討されるよう期待	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期南部地域急行バス社会実験の実施・検証 ・住民意見交換の実施や、協議会を通じた評価を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民意見や協議会を通じた評価の結果をふまえた、新たな南部地域における社会実験を実施
	東部地域については、関係町村と連携して地域間幹線系統との棲み分けも考慮しつつ、最適化が図られるよう期待	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間幹線系統との乗り継ぎ利便性向上を念頭に置いた具体的な再編を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 地域間幹線系統との乗り継ぎ利便性向上のためにデマンド交通を導入した社会実験の実施を検討
	今後、地域公共交通計画に掲げられた事業が着実に実施されるよう期待	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通計画に掲げた実施事業スケジュールに沿って各事業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業において、継続して実施

※前々回：令和4年3月1日（結果通知）

6.計画・評価の推進体制

PDCAの推進体制やスケジュール

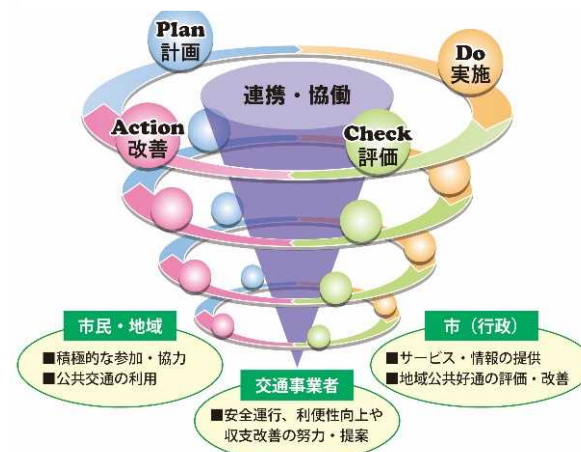
○地域公共交通を確保・維持・改善していくために、市民や公共交通事業者、市（行政）等の関係者が協働・連携し、計画の立案（Plan）・計画の実施（Do）・計画の評価（Check）・計画の改善（Action）を繰り返す

○毎年開催する「弥富市地域公共交通活性化協議会」において、“関連し実施する調査等”の結果や事業進捗状況等を基に評価するとともに、コロナ禍による影響も踏まえつつ、目標の達成状況や上位計画の改定内容を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことで推進する

PDCAの実施スケジュール（計画抜粋）

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
計画の立案 Plan	→ 計画見直し				→	→ 計画見直し
計画の実施 Do	→ 事業実施					
計画の評価 Check	→ 進捗・目標	→ 進捗	→ 進捗	→ 進捗	→ 進捗	→ 進捗・目標
計画の改善 Action	→				→ 上位計画との整合性 事業内容・スケジュール等	
備考				弥富市総合計画 前期基本計画 目標年		

PDCAの推進体制（計画抜粋）



直近1年間の協議会スケジュールと主な協議・報告事項

協議会	令和5年3月22日 (令和4年度 第4回)	令和5年6月22日 (第1回)	令和5年11月6日 (第2回)	令和5年12月25日 (第3回)
主な 協議・報告 事項	<ul style="list-style-type: none"> ●第3期南部地域社会実験運行について ●コミュニティバス運賃助成交付事業について ●令和5年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画（案）及び予算（案）について 	<ul style="list-style-type: none"> ●令和4年度収支決算について ●令和6年度地域公共交通確保維持改善計画（案）について ●無料お試し乗車券について ●第3期南部地域社会実験運行について 	<ul style="list-style-type: none"> ●第3期南部地域社会実験運行について ●無料お試し乗車券について ●チョイソコやとみの停留所の新設・移設について 	<ul style="list-style-type: none"> ●令和5年度地域公共交通確保維持改善事業・事業（自己）評価について ●弥富市地域公共交通計画の修正について ●第3期南部地域社会実験運行について

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年12月25日

協議会名: 弥富市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 令和5年度地域公共交通確保維持事業のうち陸上交通(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討)の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善案は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通(株)	弥富市内を巡回する3路線(北部ルート、東部ルート、南部ルート)を運行し、各ルートとも近鉄弥富駅やイオンタウン、総合福祉センター等の主要な施設にアクセス。また、東部ルートは地域間幹線系統である飛鳥公共交通バス蟹江線と一部バス停を共有。	<p>対応方針1 1期・2期に続く、第3期社会実験運行の実施 ⇒地域公共交通計画に基づき、1期・2期の急行バス社会実験運行に引き続き、令和5年6月から令和5年11月までの半年間、デマンド運行導入に向けた実証実験となる第3期社会実験運行を開始 ⇒1期・2期の急行バス社会実験運行やデマンド運行導入に向けた実証実験である第3期社会実験運行の結果を踏まえ、協議会を通し具体的な再編案を検討</p> <p>対応方針2 新型コロナによる生活様式の変容も含めた継続的な利用促進活動の推進 ⇒アンケート調査や広報、HP、住民説明会などの住民との接点を活用し、外出機会の創出につながる情報や公共交通の安全性を周知 ⇒GTFSDデータの活用による乗り換え検索への対応拡充による利便性向上</p> <p>対応方針3 福祉施策と連携した買い物支援サービスの展開 ⇒弥富市ささえあいセンター利用会員を対象に、自宅と店舗との往復の移動と買い物をセットにして支援する「買い物支援サービス」を令和5年度も継続的に実施し、福祉施策と連携した交通体系を構築 (道路運送法施行規則第49条の2に規定する福祉有償運送)</p>	A 計画通り、弥富市内を巡回するきんちゃんバス3路線の運行を維持した。また、地域公共交通計画に基づく取り組みとして、福祉施策と連携した買い物支援サービスを展開するとともに、協議会や住民説明会を通じ、無料お試し乗車券の配布による新規利用の発掘をおこなった。さらに、第1期・2期の急行バス社会実験運行の結果や地域の特性や需要の違いを踏まえ、第1期・2期とは形態の異なる第3期社会実験運行(デマンド運行導入)に向けた実証実験を実施している。	<p>目標①: 使いやすい地域公共交通網の形成による利用者数の維持・増加 【全体目標値】令和5年度: 9.4万人 【予測値】令和5年度: 8.2万人(未達成) 【南部目標値】令和5年度: 3.5万人 【予測値】令和5年度: 4.5万人(達成) 【北部目標値】令和5年度: 4.1万人 【予測値】令和5年度: 2.7万人(未達成) 【東部目標値】令和5年度: 1.8万人 【予測値】令和5年度: 1.0万人(未達成) ⇒温浴施設利用が多い東部ルート、買い物利用が多い北部ルートだが、新型コロナによる生活様式の変容の影響で伸び悩み、新型コロナ前の水準まで回復していない。ただし、通勤・通学利用の多い南部ルートは、令和5年3月末より高校生を対象としたコミュニティバス運賃助成定期券交付事業を開始したこともあり、新型コロナ前の水準を大きく上回り、計画の目標値に対しても大きく上回っている。 ※令和5年度の予測値: 令和5年4月から令和5年10月までの実績に基づく傾向が年度末まで続いた場合の予測値 【参考】令和5年6月から令和5年11月の半年間実施した、デマンド交通である「チョイソコやとみ」の第3期社会実験運行の利用者数: 607人</p> <p>目標②: 利用促進策の展開等による新規利用者の獲得 【目標値】毎年80人以上 【実績】108人(達成) ⇒お試し乗車券108人 ⇒昨年度と同程度の期間、無料お試し乗車券を実施 ⇒令和4年度に比べ新型コロナによる行動制限が緩和された影響で外出機会が増えたことが新規利用者増加の理由として考えられる</p> <p>目標③: 利用者1人当たり運行経費の削減による持続性の確保 【目標値】令和7年度における利用者1人当たり運行経費: 1,000円/人以下 【予測値】1,309円/人(未達成) ⇒人件費の増加に伴う運行経費の増加と利用者の伸び悩みが大きく影響 ※運行経費は令和5年度の予算(案)をもとにした、きんちゃんバスの運行経費と第3期社会実験運行に係る経費の合計 ※利用者数は令和5年4月から令和5年10月までの実績に基づく傾向が年度末まで続いた場合の予測値と令和5年6月から令和5年11月の半年間実施した、第3期社会実験運行の利用者の合計</p> <p>目標④: 収支率の改善による持続性の確保 【目標値】令和7年度における収支率: 6.0%以上 【実績】4.9%(未達成) ⇒人件費の増加に伴う運行経費の増加と利用者の伸び悩みが大きく影響 ※令和4年度の実績(決算書より)</p> <p>目標⑤: 住民意見交換会の実施による地域公共交通を創り、支える環境の形成 【目標値】令和7年度までの意見交換会の開催数: 2回以上 【実績】計4回(達成)</p>	<p>①地域特性や地域による需要の違いを踏まえた、市全体の公共交通網の再編 ◆利便性の確保と1人当たり運行経費や収支率の削減のため、第1期・2期・3期の社会実験運行の結果を踏まえた市全体の公共交通網の再編案を検討 ◆住民意見交換会を適宜開催し、現行の弥富市地域公共交通計画の見直しと住民のニーズに合った公共交通網の再編を検討</p> <p>②継続的な利用促進活動の推進による外出機会の創出 ◆無料お試し乗車券の継続的な実施による、外出機会の創出と公共交通の利用促進 ◆アンケート調査や広報、HP、意見交換会などの住民との接点を活用し、利用促進につながる情報や公共交通の安全性の周知、きんちゃんバスや周辺自治体が運行するバスの情報、かしこいクルマの使い方の情報を提供</p>

令和5年度地域公共交通確保維持改善事業・事業(自己)評価について

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年12月25日

協議会名:	弥富市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	令和5年度地域公共交通確保維持事業のうち陸上交通(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>■基本理念 市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持</p> <p>■目的 ・平成21年7月に弥富市地域公共交通活性化協議会を発足し、平成22年3月に「弥富市地域公共交通総合連携計画」を策定し、平成22年6月21日より地域公共交通活性化・再生総合事業の計画事業として、通学・通勤・通院・買い物など市民生活のための移動手段の確保、公共交通空白地域の解消を目的として新たにコミュニティバスの実証運行を開始した。また、平成24年4月より地域公共交通活性化・再生総合事業の計画事業(経過措置)としての実証運行を終了し、本格運行へと移行した。平成28年3月には「弥富市地域公共交通網形成計画」を策定し、「市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持」という基本理念の下、まちづくり等の上位・関連計画と連携するとともに、地域特性や利用者特性に応じた継続的な改善を行い、使いやすく環境にもやさしい地域公共交通として確保・維持することを目的としている。 ・なお、令和3年3月に新計画として「弥富市地域公共交通計画」を策定した。</p> <p>■必要性 ・利用者総数は少ないものの本格運行開始以降増加傾向を維持しており、令和2年度の利用者実態調査等の結果では「利用者の約8割が65歳以上の高齢者で、買い物や通院、公共施設の利用目的の利用が多い」という特徴を把握されたことから、高齢者等交通弱者の交通手段確保として確保・維持していくことが必要である。また、「弥富市地域公共交通計画」に基づき、今後も市内バス運行の改善・充実のため、ニーズに即したダイヤの見直し、隣接する自治体との連携等の検討を行い、あわせて地域公共交通確保維持事業により、鉄道や飛鳥公共交通バスなどの幹線に接続し、市民生活と地域を支えるフィーダー系統として確保・維持していくことが必要である。</p>